

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

- | |
|--------------|
| 1 一括質問一括答弁方式 |
| 2 一問一答方式 |

質問件名 人口推計のひとり歩きを防ぐため、より科学的な提示を

質問要旨

小平市は、市の計画を立てる際や、市民への説明をする際など、様々な場面で人口推計を提示している。その推計によると、小平市は5年後である令和7(2025)年に人口ピークを迎え、その後は人口が減少し続けるとされている。なお3年前の平成29(2017)年2月の報告書においては、人口ピークは本年令和2(2020)年に迎えるの見込まれていた。しかし、市への転入者数が予想より多かったことなどから、今回5年後に修正されている。

一方、人口が5年後から減少に転じ、そのまま減り続けるという推計に疑問の声もある。なぜなら今後は地方の過疎化が加速し、環境の整った都市へ移り住む人が多くなることが予想されているため、都心から適度な距離にあり、交通の便もよく、地価もそれほど高くなく、目立った災害も少なく、かつ、生産緑地が急速に宅地化されている小平市のような自治体は、最適な移転先候補になるからである。実際、平成30(2018)年には、全市町村のうち小平市の転入超過数が全国で16位になった。

小平市が人口推計に用いているコーホート要因法では、5年間のデータをもとに次の5年間の数値を推計し、さらにその推計で出た5年間の数値を次の5年間の推計で用いるとしており、将来的な数値がどこまで意味を持つのか不明である。また、通常、科学的な推計を行う場合、将来的な数値はその算出に用いるパラメーターの変動などから、幅(上限値・下限値等)や確率を持って示されるものだが、小平市が通常提示している人口推計は、転入・転出数といったパラメーターの変動が大きいにもかかわらず一本の線で示され、単純化されすぎている。

財政運営の観点からは最悪のケースに備えることが欠かせないが、経済は人々の想像力の上にある。「人口が減るため、あれもあきらめ、これもあきらめなければ、やっていけない」といった発想を市民に浸透させることは、人々の想像力を制限し、必要以上の経済活動抑制につながる恐れがあり、慎重にならなければならない。そこで、小平市の人口推計について、その妥当性と、提示方法について問う。

1. 市の人口のピークは、これまで何度、どのように修正されてきたか。
2. 市は、変動が大きく、一定の確率内でしか予測できないはずの人口推計を、さも確定しているかのように一本の線で示し、その人口ピークと、急激に人口が減少する様子を印象付けることで、抑制的な施策が進めやすいように世論を誘導しようとする意図はないか、市の見解を伺う。
3. 複数の推計方法の結果も併せて、少なくとも幅を持たせた、より科学的に正確な人口推計情報の提示を行うことで、上記のような経済活動抑制につながる懸念を減らせると思うが、市の見解を伺う。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

令和2年2月13日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 安竹 洋平

受付番号【 】
